



はばたき

第62号 【新年号・春号 合併号】

発行 一般社団法人日本経営管理協会神奈川県支部
編集責任者 神奈川県支部長 宮原 汎
編集長 石原愛子 横浜市戸塚区平戸町 1137-24
TEL: 090-8041-9125 e-mail: ishihara-a@jima.org



Happy
New
Year

本年もよろしくお願いたします。

2017年が始まりました。酉年は新しく物事を始め、挑戦するにはグッドタイミングとされています。「酉」の字にはもともと「果実が熟してきた状態」という意味があるそうです。そこから「まいてきたものが実り、刈り取る時期」「いままでの努力が報われる時期」ということにもつながっていきます。実りある一年になりますように。(AERAdot.HP 参考)

新年にあたり、神奈川県支部の皆様から、<2017 新年の抱負・希望・目標・生き方>を「漢字一文字」で表現してもらいました。



宮原 汎 (神奈川県支部長)

【年頭の一字】を恵と致しました。

この字が持つ、「温かくいつくしむ。相手を温かく抱きこむ思いやり。穏やかなさま。賢さ。深くはつきり理解できる心の働き。」という意味を今年の心の目標にしたいと思います。



照屋行雄 (神奈川県副支部長)

「耐」は矜持をもって耐えることを意味する。内面ではひたすら忍び、外面ではあくまで平静を強いられる。我々は人生の様々な局面で直面する深刻な事態に耐えて耐えて、そして乗り越えなければならない。2017年は「耐」を噛みしめる一年となる。



石原愛子 (神奈川県副支部長)

新鮮でつやがあるさま。生き生きしたさま。また、若々しいさま。という意味がある。「改革の年」とも言われる酉年の今年、自分の中にある新しいものが発見できるように、「瑞瑞しい」感性を身に着けたいと願う。歳をとるほどに「瑞瑞しい」と思える立ち姿でいたい。



山田宏昌（神奈川県支部相談役）

「AI」（人工知能）の進化のスピードが増している。人間はAIロボットに論理と確率と統計では負けることが多い。けれど、「意味がわかる」「空気が読める」「心が通じる」そんな人間の「知」に私はこれからも期待したい。



石井 渙（神奈川県支部常任幹事・事務長）

「今」です。「而今（じこん）」の「今」です。曹洞宗の開祖、道元禅師が修行時代に悟った哲学と言われております。要は、確実なことは過去でも無し、未来でもなし、「今、この一瞬」だけだ、ということだそうです。



山田洋子（神奈川県支部常任幹事）

漢字の語源では、サンズイ編に羊。羊は神の意があるので、広く大きい神の心のようにとあります。太平洋戦争のさなかに生まれたので、日本海より広いという思いを含んでいたと思っています。78歳を前に、名前に少しでも近づく努力したいと思っています。



平田沙織（神奈川県支部常任幹事・会計）

この度、長岡大学の専任講師が決まりました。

ご指導ご鞭撻下さった方々への感謝の気持ちを忘れずに『新』潟という『新』しい環境で頑張ります。引き続き研修会へも参加しますので『新』年度もよろしくお願い致します。



関町 肇（神奈川県支部会員）

「究める」。トランプ大統領の誕生、英国のEU離脱、西欧先進諸国の自国第一主義の台頭など本年は予測不能の「まさか」と「渦」の年と考えてます。渦に飲み込まれないよう自身の目で正体を見究める、という意味で「究」を選びました。



下村 宏（神奈川県支部会員）

今年は還暦を迎えました。人生一巡りした所で、自身の次の云十年へ、ビジネス分野での後輩たちへ、家族へいろいろな面で、これまで得たものを「継いでいくんだ」との気持ちでこの漢字を選びました。

神奈川県支部 定例研修会

「働く人の環境等改善及び注目の労働判例から学ぶ」 講師：山田宏昌氏

2016年10月15日(土)

神奈川県立神奈川近代文学館会議室にて

いま我が国は、人口減少のなか、多様で柔軟な働き方を選ぶようにすることが成長に繋がっている。女性の社会進出や格差の是正、家族の形も変化しつつあり対応が不可欠となっている。講義は、安倍政権が力を入れて実現しようとしている「働き方改革実現会議」のポイントとなる3つの柱①同一労働同一賃金の実現(正規・非正規労働者間の賃金格差縮小)、②長時間労働の是正(子育てや介護を抱

えた人、高齢者らを働きやすくする)、③外国人労働者の受け入れに向けた法制の検討(政府方針の方向)を中心に、それらを実現する上での現状の問題点を具体的に探る展開とした。

また、働く者の約4割は非正規の現状について、通常の労働者と同視すべき短時間労働者に対して、通常の労働者と均衡のとれた待遇の確保を図ることが重要だと述べた。

後半では、「広島マタハラ最高裁判決事件」の最高裁判決について参加者と活発な討論が行われた。

「高齢者雇用の現状と課題」 講師：石原愛子氏

2016年12月17日(土)

県立神奈川近代文学館会議室にて

「なぜ今、高齢者雇用なのか」を投げかけ、高齢者(働く意欲のある者)が活躍する時代がきたこと、高齢者の能力や経験が活用できるように社会環境整備が必要となることを述べた。

労働人口と労働力率の推移の図を見ながら、少子高齢化の現実を見る。日本の高齢化の特徴、海外と比較しながら、日本の高齢化の特徴を説明した。

高齢者雇用の課題として、継続雇用に入るとモチ

ベーションが下がる、どのような給与制度が適切なのかわからない、元上司が部下になると使いにくい、高齢者は新しいものに対応する能力が低い、高齢者にやってもらう仕事がない等実際に現場の声を聞いたことを取り上げた。

高齢者が戦力として働くための対策として、高齢者社会を生き抜く能力開発の必要、企業の役割(高齢者を活かす職場を作る)、そして仕事の側面だけでなく、学習、趣味、社会奉仕など多彩な活動によって能力を発揮して自己実現の必要性を説いた。

「世界の石油産業と日本の石油産業における動向」 講師：宮原 汎氏

2017年1月21日(土)

県立神奈川近代文学館会議室にて

石油についての基本情報と基礎知識について、過去に支部で研修を行ったことを踏まえて、参加者との質疑応答形式で研修を進めた。

昨年11月及び12月に原油の減産がOPECそして非OPECで合意され、2017年1月から協調減産が始まる。こうした影響の参考として、産油国の経済均衡に必要な原油価格、今後に向けた取り組みなどを紹介するとともに、地球上で起きている石油を

めぐる出来事や予測の一部など、さらに理解を深める紹介を行った。

日本国内では少子高齢化や消費行動や生活習慣の変化等により、年を追って需要が先細りし、併せて設備の老朽化や競争の激化が経営を圧迫、消費者との接点である小売業界(SS数)も大幅に数が減少している。こうした現状と将来に備えて、石油元売りの再編が進められているが、その規模は時価総額を比較しても大きな差があり、今後の経営の効率化など体力強化が期待されている。

桜 吟行

神奈川県支部 春の研修会恒例となりました吟行が2017年3月25日(土)に行われました。当日は、太陽の光が射していたにも拘らず、風が寒さを感じさせる一日でした。桜木町駅改札集合→日本丸→自動車道→赤レンガ倉庫→象の鼻パーク→山下公園まで横浜の桜散策を楽しみました。

気象庁によれば3月25日が桜の開花予想でしたが、ここ数日の寒波の影響で、開花を待つ蕾のままの木々が殆どで、こぶしの花が目立つのが印象的でした。一方、寒さを感じる陽気の中で、横浜緋桜(ヨコハマヒザクラ)は見頃を迎えており、「桜」吟行を楽しむことができました。吟行句は内藤潮南先生に添削をお願いしました。

■石井 渙 先生

人波に押され流され春爛漫

良く詠まれています。上野の山は人で「ロダン像」も考え込んでいました。

川面より登り起つなり花吹雪

大川の流れに乗り桜の花びらが舞っている様子が良く出ています。

■宮原 汎 先生

桜咲く夢に描くも週おくれ

桜は「散るもよし」と言われています。盛りを過ぎ人もいなくなつた花見も良しです。

陽光に桜吹雪と人の波

桜満開の花見の情景が良く詠まれています。

■山田 宏昌 先生

吟行や港の桜固きまま

「固きまま」は「桜の開花待てぬまま」ではどうでしょう。

悩みを幹に隠して桜八重に咲く

「悩みを」を「身の悩み」に、誰にも悩み事はありません。一時「桜」の花に移して楽しみましょう。

■山田 洋子 先生

夫婦して見上げる桜まだ蕾

「桜」には一寸早かったのでしょうか。ご主人との「話」に花を咲かせて下さい。

「さくらさく」通知まだかと子も親も

「試験」の結果を待つ家族の状況が見えます。

■平田 沙織 先生

海風に踊る柳と野毛の酒

気持ちの良い「景」の中で、一緒に踊りたくなります。

絡まりて全身春の風の中

「春」真中、言い表しています。私も踊りたい気持ちになります。

■諏訪部 栄亮 先生

早春の港みらいは花・飛鳥

「桜」とが「海」の組み合わせが良いです。「海」「飛鳥」がみたいです。病床に伏した身に知る健康の価値

体調が芳しくない私にも、良く分かります。ただ「季語」がありません。

■石原 愛子 先生

入港す豪華客船さくら時

「さくら時」は「花見時」ではどうでしょう。

路地の端好きで走る子雪柳

良く「情景」が詠まれた一句と拝見しました。

母の日や妻に贈りし小銭入れ
踊り子草粹に踊りて散りにけり

内藤潮南





ランドマークタワーと大島桜



スイセンが真っ盛り



横浜緋桜は満開



桜散策のメンバー（枝垂れ桜の前にて）



咲いた～咲いた～チューリップの花が



豪華客船「飛鳥」入港



春の山下公園



赤レンガ倉庫と雪柳

神奈川県支部 箱根研修

神奈川県支部の恒例である、箱根研修（2016年11月25日（金）～26日（土）一泊二日）および懇親忘年会が「小涌谷 金型荘」にて行われました。参加人数は17名となりました。

研修後は箱根の源泉にゆっくり浸かり、大広間にて懇親忘年会が盛大にとり行われました。旅館の手違いにより船盛はありませんでしたが、金型

荘の美味しい料理は満足のいくものでした。

恒例となったビンゴ大会など大いに盛り上がり和やかな雰囲気と共に楽しく交流を重ねました。さらに、2次会、3次会まで盃を交わすなど懇親を深めて充実した内容で楽しさ溢れる一泊研修となりました。

時流を斬る



石井 渙

「あなたはどう考える、天皇の生前退位」をテーマに学識者等の意見を引用し課題を述べた。



石原 愛子

「日立製作所のV字回復を実現した事業構造改革」をテーマにその要因を抽出し、構造分析をしたうえで最後に組織風土に触れて締めくくった。



川津 文明

「公共図書館の障害者における対応について」をテーマとして差別解消法から公共図書館の障害者に対する対応を述べた。



下村 宏

「企業の情報システムに対する経営／ユーザー満足度がなぜ上がらないのか」をテーマとして、期待とギャップにその原因を求め、解決の視点としては、組織、業務プロセス、人材育成の改革が求められるとした。



宮原 汎

「気候変動とパリ協定、南の島の楽園を救え！」をテーマとして2015年に発効したパリ協定を背景に温暖化の問題点を述べた。



研修会の様子（会議室）



庭には紅葉と雪が混在



2016年度研修参加者



山田 宏昌

「A I（人口知能）の進化と懸念」をテーマに、A Iの進化におけるリスクを抽出し、その解決策を人間自らの道徳・徳育の教育に求めた。



山田 洋子

「私の人生経験」をテーマにこれまでの人生のハイライトを語り、今後の生きる決心を述べた。



山本 和夫

「日本経済の変遷とコーポレートガバナンス設定目的」をテーマに、上場企業の社外役員の立場から日本の産業の変遷を説明し、創造的破壊の必要性を説いた。



斉藤 誠

「サラリーマン税金訴訟最高裁判決と租税教育」をテーマに税理会の租税教室の講師の立場から憲法の原文を引用することによりその趣旨を解説した。



石井 洋子

「70歳になって生きる今を思う事」をテーマに、自らの経験から家族のつながりの大切さを説いた。



井上 洋一

「トランプ・ショックと世論調査」をテーマとして、世論調査の手法を詳しく解説し、なぜ米マスコミの予想を裏切ってトランプ氏が当選したのかの問いを出席者に投げかけた。



石田 弘元

「終末期医療における希望事項宣言（サンプル）」を提示し、終末期医療におけるヒントを示した。



諏訪部 栄亮

「太陽光発電事業を普及させる収益事業を一緒に始めてみませんか」と題し、太陽光発電事業における費用、効果、融資について具体的に解説した。



田川 武

ご自分で発刊された小冊子「横須賀の史跡・伝説を訪ねて～馬堀海岸から横須賀駅周辺～」を基に浦賀等の歴史の解説をした。



若杉 明 会長

最後に総括として、若杉明会長より広範に及ぶテーマにも拘わらず、個々の発表に対し、それぞれの確かつ鋭い論評をいただいた。



ビンゴゲームでのプレゼント交換！お酒も入り、楽しいひと時です。



カンパイヤ！





季題「新年」

【内藤潮南先生プロフィール】
 元東京支部長・関東支会長、台東区俳句人連盟副会長、連盟所属「和の会」会長、中央大学中央俳句副会長、俳人協会会員、台東区教育委員会「俳句講座」講師。

内藤潮南

◆照屋雨鵬 先生

初詣で大きなごぶしに小さき手
 佳く詠まれています。「大きなごぶしに小さき手」に情景が見えます。
 童らの囲み賑やく寿命独楽

◆山田洋子 先生

「賑やふ」で如何でしょう。寿命独楽は、神奈川県のお祭遊び（大山こま）と聞きました地域表現が良いです。

◆初春に升で屠蘇のむ幸せかな

下五は「幸（さち）があり」ではどうでしょう。「初春」と「屠蘇」が季重ねになります。

「初春や交はず盃幸祈り」では。

ベットの兄の初晴れが目にありや

「ベット」は「病床」にします。お兄さんも良い新年を迎えられた事と思

います。

◆平田沙織 先生

初詣一枝強く夜の雪
 新年の心が洗われる気持ちが表現されています。

冬はるる犬の欠伸にうとうと

「冬はるる」は「冬晴るる」に冬晴れの暖かい日、気持ちが良くなります。

◆宮原 汎 先生

夜明け前着物がちらほら初参り

「着物がちらほら」は「和服の増へし」ではどうでしょう。浅草は和服姿の他国人が増えました。

めでたさを家族で祝う雑煮餅

良く詠めています。「祝う」は「祝ふ」になります。

◆石井 渙 先生

深々と凍てる冷気に柿一つ「冷気に」を「冷氣や」でどうでしょう。「や」で句が締まります。

元朝の蒼空に照る木守り柿

「木守り柿」が「秋」の季語になります。「吊るし柿」ではどうでしょう。

◆山田宏昌 先生

英米にやきもきしつつ去年今年
 北の危険、その他国際問題で心配事が増えるのではないのでしょうか。

年玉に認知の母の笑顔かな

私も考える歳になりました。予防の為には「俳句」も良いのではないのでしょうか。

◆石原愛子 先生

百羽来て百枝に遊ぶ初雀

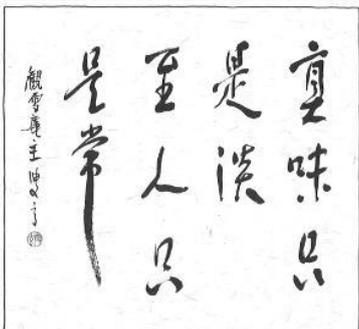
良く詠まれています。百枝・百雀等何処かで使わせて頂きたいです。

香り満つ丘の日溜まり蠟梅花

丘の「日溜まり」が効いています。

編集後記

いしはら あいこ



先日、ある飲食店で朝日酒造の蔵元が新潟からお越しになり、お酒の新商品のお披露目がありました。「久保田 純米大吟醸」を始め「洗心」、「久保田 碧壽」「参乃越州」など朝日酒造のラインナップを堪能しました。その時に蔵元より右の言葉を紹介され、大変印象深い内容のものでしたのでご紹介します。

しんみ は ただ これ たん なり

しじん は ただ これ つね なり

中国の明代の書物「菜根譚」（著：洪自誠）の一節。本当の味わいはあっさりしたものの

中にあり、立派な人は平凡そのもののような人の中にいる、の意味だそうです。朝日酒造の先代会長のお好きな言葉で、酒も人もかくあるべし、と社内報にも「真味」と名づけられているようです。お酒を通じて人間力を感じられるとは、お酒はやめられませんね。平田沙織先生が新潟の大学に在職中に酒蔵見学をしたいものです。

本年度の「はばたき」の発行が、編集人の都合により遅れましたことお詫び申し上げます。m()m 今回は合併号としてお届けいたします。（石原愛子）